

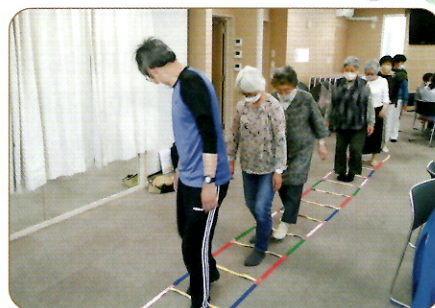
中央区 SAPPORO

# 社協 だより

Vol.93  
2022.8

Contents | もくじ

- ▶ 福まちかわら版  
～山鼻地区・宮の森大倉山地区～  
..... 2～3
- ▶ 深ボリ! 社協の魅力 ..... 4
- ▶ 事業報告・事業計画・決算・予算・  
共同募金 ..... 5
- ▶ 寄付のお礼・賛助会員報告・  
除雪協力員 ..... 6



ふれあい・いきいきサロンや  
福まちの活動が再開しています



長らく新型コロナウイルス感染症の影響により、これまで休止や延期を余儀なくされてきた「ふれあい・いきいきサロン」や「福まち」の活動ですが、感染対策や活動方法を見直し、工夫をしながら活動を再開し始めました。



赤い羽根共同募金の助成金を受けて発行しています



福祉のまち推進事業は、「住み慣れた家で安心して、ずっと暮らしたい」というみんなの願いをみんなで支える事業です。

近年の社会環境、世帯状況の変化に伴い、地域における人間関係の希薄化が進み、コロナ禍においてさらに社会的孤立が大きな問題となっています。今まで以上に身近な地域での、見守りや支え合い活動が必要になってきています。

そのため、各連合町内会単位に設置されている地区福祉のまち推進センター（以下「地区福まち」）では、住民同士の支え合い活動を広げていくために、さまざまな取り組みを行っています。

## 山鼻地区 第18町内会福祉推進委員会で 福祉マップの更新作業を行いました

### マップを活用して、見守り活動の推進!

山鼻地区は23の町内会に分かれており、世帯数・人口が区内第1位、高齢化率は区内第2位と大規模かつ高齢化が進んでいる地区です。山鼻地区の最も西側に位置する山鼻第18町内会では同意を得られた方の見守り訪問を行っており、このたび10年ぶりに福祉マップを更新することになりました。当日は11名の福祉推進員の皆さんが集まり、見守り対象者の居住する場所を地図上に落とし込み「当時は住んでいたけど、ここ

にはもう対象の方は住んでいないね」など、この10年での状況の変化を確認しながら、更新作業が進んでいきました。また、オートロックマンションでは管理人さんの協力も得ながら見守り訪問活動を行っているなど、実際の活動について福祉推進員同士で活発な情報交換が行われました。さらに、「ここは傾斜地で危険」や、「災害時に気になる高齢者や障がいのある方をどうやって避難させたら良いか」などのお話も出ていました。



▲話し合いをしながらマップに情報を書きこみます



▲完成したマップを見ながら情報交換を行いました

### 見守りグッズの活用に向けて

マップ更新の作業を終え、区社協から福まち活動についての留意点など説明を行いました。その後、マップを見ながら意見交換を行い、マップ以外に見守り活動の役に立つグッズがあれば良いとの意見が出ました。何かあった際に備えて自分の氏名・住所、緊急連絡先や通院先をまとめた推進員さんの手作りのカードを見せ

ていただき、町内会でもこのようなカードを作成して、見守り訪問世帯に配布していきたいとお話が上がりました。作成するカードにはどのような情報を掲載したらよりよいものになるかなど、今後の福祉推進委員会で検討して作成することになりました。



# 宮の森大倉山地区 やまなみ押し花教室が開講しました

**新・福まちスタイルを取り入れて3年ぶりの開催!**

宮の森大倉山地区福まちでは、「やまなみ押し花教室」が20年以上の長きにわたり開催され、多くの参加者が押し花作成を楽しまれてきました。この2年間は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、教室の開講ができない期間が続きました。その間もサポートスタッフの皆さんは、季節ごとの花を摘み、押し花にして再開できる日に向けて準備を行っていましたが、ついに今年度から再開する運びとなりました。

令和4年4月18日(月)、宮の森明和会館で令和4年度開講式と第1回目の押し花教室が開催されました。密を避けるため午前と午後の2部制で実施。会場内は座席の間隔を保ち、サーキュレーターを用いて換気を行い、マスクの着用、検温・消毒といった感染対策も万全でした。今後は毎月1回のペースで行い、3月には作品展を例年どおり開催する予定です。



▲開講式の様子



▲サポートスタッフの皆さん

**サポートスタッフの皆さんとの交流も楽しみにされていました**

この教室は住民同士の交流と介護予防を目的として行われており、押し花をあしらったマスクケース2種類を作り終えた参加者の皆さんは、お互いの作品を見せ合いながら会話に花を咲かせました。3年ぶりの開催ということで、「久しぶり」との声や笑顔があちこちにあふれ、「上手に

できない」という声も聞かれたものの、参加された方はそれぞれ馴染みのサポートスタッフの皆さんの指導を受けて、作成を終えていました。スタッフの皆さんは長い方は20年ほど携わっているとのことで、地区の行事として長く親しまれていることを感じました。



▲会話も楽しみながら細かい作業をしていました



▲換気や席の間隔など感染対策を行っています